

あ

い

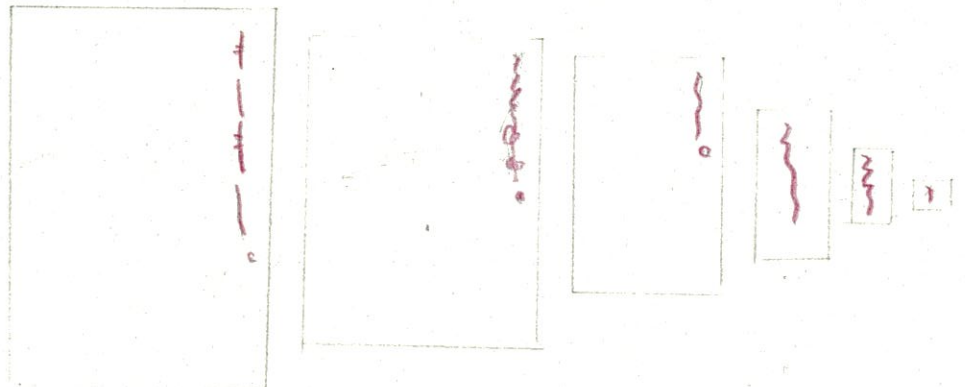
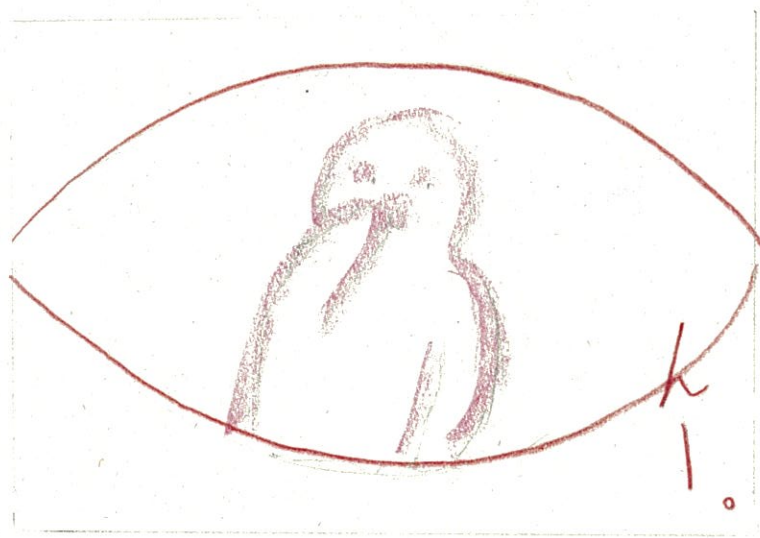
う

え

お



20X Xねん
 とつぜんゲートがでてきて
 ふたりのこともがすいこまれ
 ました。



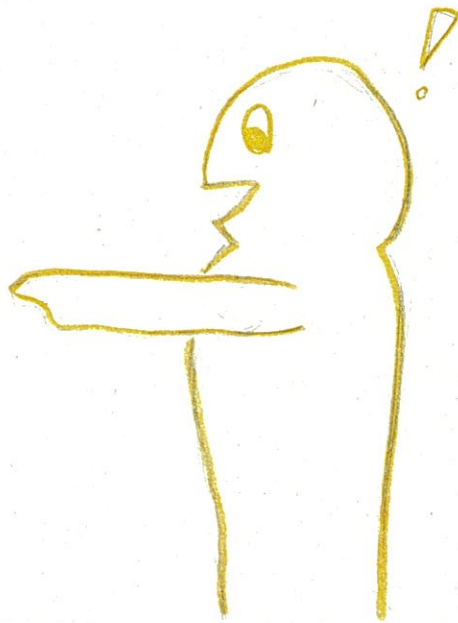
うわあ

ぼくがいる！



オレがいる！

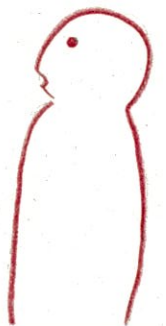
わたしがいる！



わたしがいる！

ぼくはライト

きおは？



わからない！

オレは……

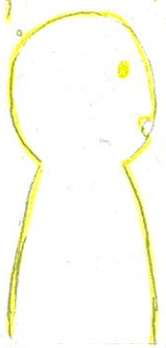
わたしはミオ

きおは？



わたしは……

わからない



どこから
きたの？



わからない



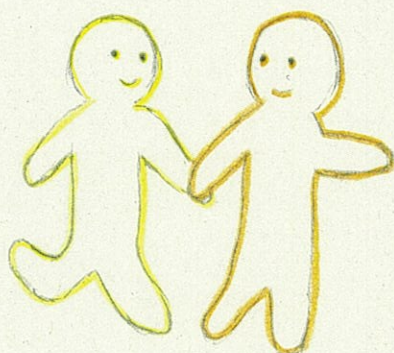
もしかしたらなにも
おぼえてないのかな？



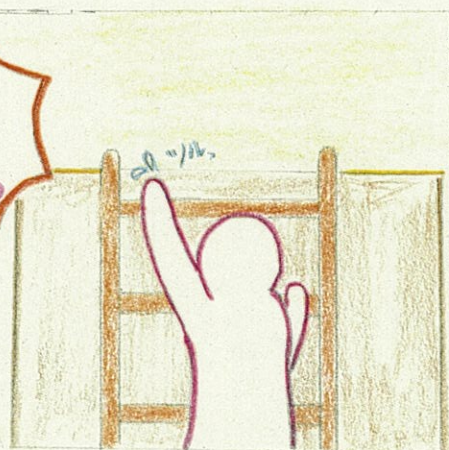
そうかもね！

とりあえず、ひめの基地に
はいろう！

はいろう！



うん

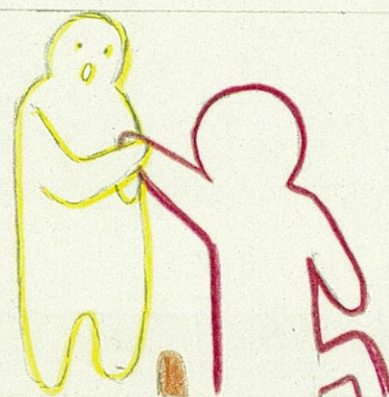


あ

ライト！



もうむかしから
ライト！
ミオ、ごめん！...



ミオ



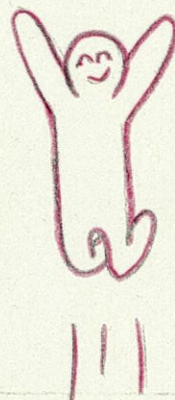
ライトと



いま、なまね!



や、た! おもいだせた!



あしたいっぺみよう。

そうかもね。

まじの物知り博士^{ものし ほかで}なら
なにかしらてるかもよ。



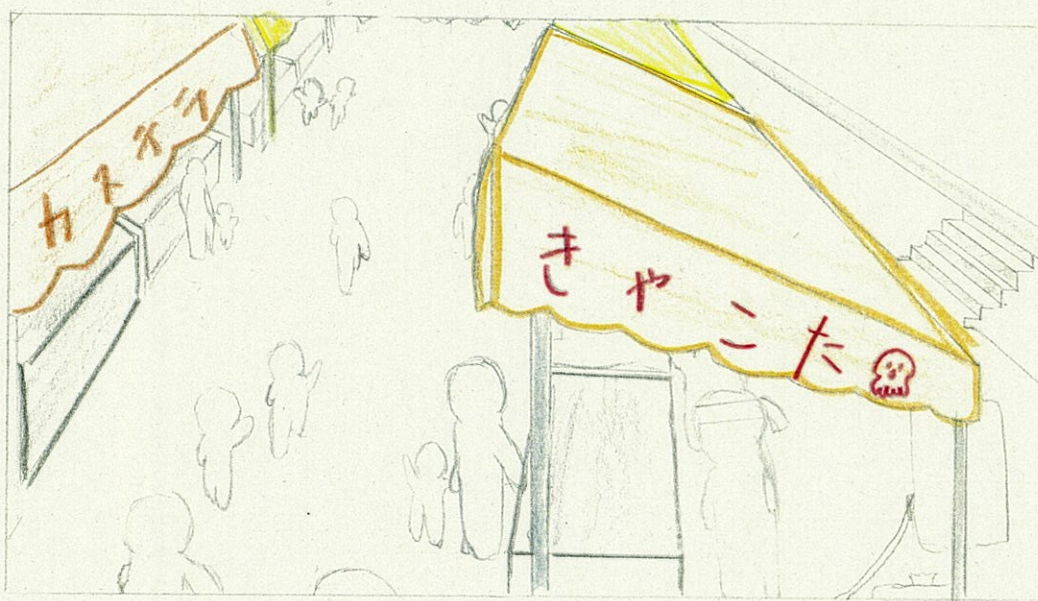
まずーつおもいだすことができ、
とてもうれーそうな4にん。
それから4にんはどうやってたら
ぜんぶおもいだせるかを
ひみつ^{ひみつ}の基地^{きで}でかんがえました。

おねがいします。

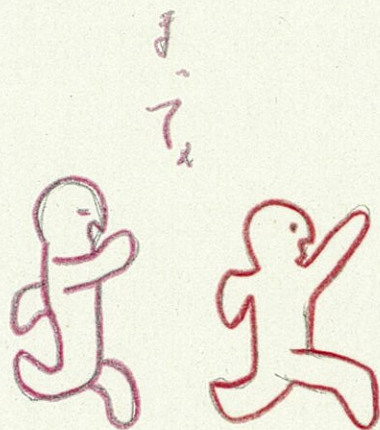
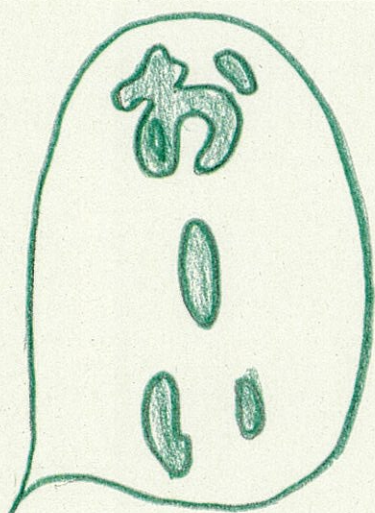


わかった、しらべておそう。

そしてつぎの日は、
4にんは、博士のいえに
どうしたら自分たちの
世界にかえられるか
きこえました。



今日(きょう)は、夏(なつ)祭(まつ)りの
日(ひ)です。



まて

ごめん。

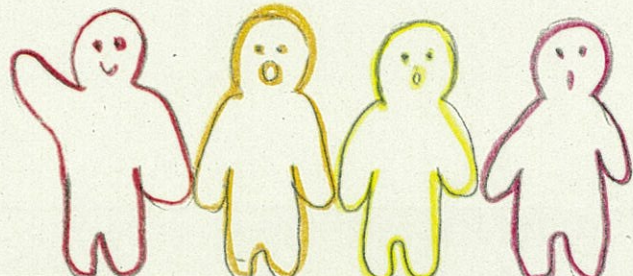
花火(はなび)はじまるぞ



ライト、はやく！

時間(じかん)がない、
はやくきてくれ！
わかったぞ！

はあ……はあ……



あ、博士(はかせ)！
どうしたんですか？

女にんは走りながら
博士のおはなしを
ききまわした。

「おめたち、おともだちに
なにかつたってもらったとき、
ありがとうっていったこと
ないよね。」

「あ、うん。だって、はずかしいもん。」

「そればかりかな。」

「え？」

「ありがとうっていえないと

あいてのひとは良い気持ち

にならないうし、なかくな水な

いぞ、いうひとよりいえな

ひとのほうがかっこわるいぞ。

はい。

博士たちは木の
ところへいきまわした。



あ、ゲートが！



いそげ、あとすこし
しかひらかんぞ」

え！

またね。

すこしのあいだ

だったけど

「ありがとう」

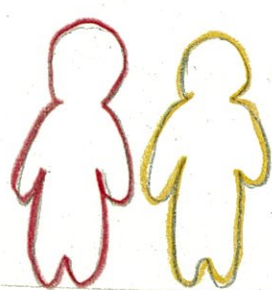
また

あおうね

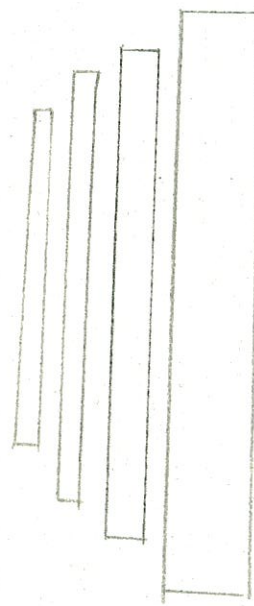
うん



い、ちったね・・・



2人はふじにじぶん
たちの世界にかえり、
博士にいわれたとおり
「ありがとう」がいえる
ようになりまわした。

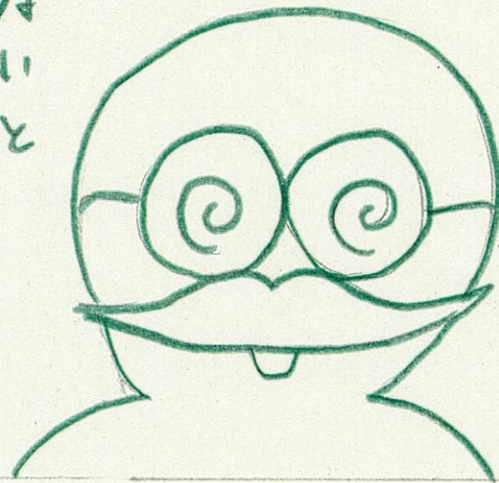


ホォー

いっはわしかつれこん
だんじや。

きみらも

「ありがとうが」



いえないと

つれこむや。

ホォー、ホォー、ホォー

お

わ

り